



ベスト シーニックバイウエイズ プロジェクト2018 応募プロジェクト一覧



ベストプロ2017 最優秀賞

支笏洞爺ニセコルート

『～地域・電線管理者と連携した
「電線の見えない化」～ビューポイント
パーキングの景観改善（電線移設）』

活動名称

どうなん道の駅連携事業

エントリー部門

活力ある地域づくり

ルート名称

どうなん・追分シーニックバイウェイルート

①活動概要

- 活動の目的・目標：当ルートでは、フットパス事業・サイクルツーリズム事業を推進しており、それらの拠点となる「道の駅」をルートの強力な地域資源として、連携向上による更なる道の駅の質の向上とルート全体への周遊促進の活性化を図ることを目的に道の駅連携に関する活動に取り組んでいます。
- 活動内容：道の駅の連携をより高めるため、専門学識者に道の駅について視察して頂き、その結果を基に各自治体及び道の駅担当者と個別ヒアリングやワークショップを開催し、今後の道の駅の連携に向けて情報交換を実施。サイクルツーリズム事業の推進については、ルート内の道の駅と連携し、サイクルサインやラック等の整備により、道の駅でのサイクル環境の向上と情報発信の拡充を図った。冬期の閑散期対策においては、道の駅等が連携したどうなん・追分シーニックdeナイトの取組の拡大を実施しました。
- 活動期間：平成28年度～30年度

②活動の体制



専門学識者による道の駅視察



シーニックで活用しているサイクルサインを利用



9町にサイクルサイン・サイクルラック・空気入れ・簡易工具を設置

③PRポイント

【苦勞した点や工夫した点】

- ・専門学識者の視察では、各道の駅の実施内容を道の駅管理者より、直接、説明をし、各道の駅での課題や改善点等について、御助言を頂ける環境を調整。
- ・シーニックdeナイト連携イベントは、より連携ができるよう、道の駅管理者等と実施時期、会場の拡大に向けて調整を実施。

【活動の成果】

- ・シーニックdeナイト連携イベントは、道の駅「しりうち」、えさし海の駅開陽丸を今年度に新たに参画して頂き実施。
- ・ワークショップにおいて、今年度の取り組みを通じ、ルート内の道の駅同士の関心が高まり、多くの意見が交わされ、点を線にしていくという意識の統一等が図られ、参加者から好評を得た。
- ・サイクルサイン・ラック・簡易工具を各道の駅等に設置したことにより、ルート内に自転車で巡る環境が確立された。

【今後の活動予定等】

- ・道の駅が国道沿いにある恵まれた設置条件を活かして、更なる地域の拠点となるよう多様な連携を実施することによって、観光客だけではなく、地域の方々にとってもスポーツやレクリエーションの拠点としても活用されるよう、今後も連携を継続していきます。

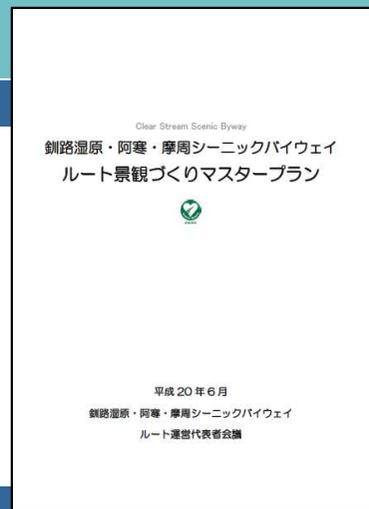


12月23日に、道の駅みそぎの郷きこない、えさし海の駅海洋丸等でシーニックdeナイトを開催

活動名称 道路景観の改善に向けた道路附属物の影響評価と改善

エントリー部門 美しい景観づくり

ルート名称 釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウエイ



①活動の概要

- 活動の背景と目標：「ルート景観づくりマスタープラン」は、ルートが誕生した平成20年に策定しました。活動団体、地域住民の高い意識で計画を策定したものの、フォローアップを行う持続的な仕組みが構築されておらず、思うように改善が進んでいませんでした。シーニックバイウエイの源流である「景観の持続的な改善」が活動の目標です。
- 活動概要：「ルート景観づくりマスタープラン」の各景観課題は、それぞれ改善の優先度が異なるため、始めに現地視察を実施し、**優先度を評価**した上で、**中期的な時限計画**と**フォローアップ体制を再構築**し、景観改善を行いました。
- 活動場所：釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウエイの主要ルート（R240、R241、R243、R272、道道中標津標茶線）
- 活動期間：平成25年度)現地視察による改善優先度の評価⇒時限的(5年間)な道路附属物の適正化年次計画を策定
平成26年度～平成30年度)優先度に応じた附属物の適正化の依頼⇒改善結果の確認・評価⇒次年度目標の設定

②活動の体制と実施手順

I) 現地視察会での評価(平成25年9月19日)
道路附属物による景観阻害状況を視察し、改善の優先度、必要性をSBW・住民、道路管理者で評価



II) 時限計画の策定(H25)
SBWとの2回の会議を経て、年次計画(5年)を策定



優先度	適正化年次計画	年次計画				
		H25	H26	H27	H28	H29
高	青矢印	8	7	1		
	白矢印	9	8	1		
	標識集約	4	4			
	標識集約(多数移動)	2		2		
	矢羽根干渉	3		3		
中	赤シェブロン	9			3	3
	黄シェブロン:異形	2				
	標識集約(2枚)	2			1	1
	標識集約(1枚移動)	16	3	12	2	1
	蛍光看板	8	2			2
低	橋欄干(環境色へ)	4			2	2
	視線誘導柱(環境色へ)	54			13	24
	標識重複	3	3			
	標識柱(環境色へ)	1				1
	生育不良(剪定しすぎ)	9		4	5	
シェブロン(道道)	1					
標識(公安委員会)	1				1	
路面利用、電柱	1					
合計		15	14	21	26	33

III) 持続的改善とフォローアップ

- H26～H29
Plan: 優先度に応じた年次計画 (SBW・開建本部)
Do: 可能な範囲で付属物の適正化 (開建本部・事務局)
Action: 改善計画の再検討・課題整理 (SBW・開建本部)
Check: 現地確認と改善結果の評価 (SBW・開建本部)
- H30
更新・補修時の対応箇所を整理

③PRポイント

- 現地視察による優先度評価**: 全課題箇所の改善は難しいため、始めに現地視察を行い、優先的箇所、急がない箇所、改善不要箇所を明確にしました。
- 目標の明確化**: 計画策定が目標ではなく、実際の改善が目標であることを明確にするため、5年間の年次計画を定めて、景観改善を目指しました。
- 持続的な改善**: 計画策定で終わることがないように、計画に基づく改善状況の現地確認・評価などのフォローアップを行い、改善活動を継続しました。

【活動の成果】

●下表のように、5年間で多くの道路附属物の改善が完了

デザインの異なる重複看板(矢印)の撤去	17箇所
標識集約(支柱2本⇒支柱1本に集約)	20箇所
重複している警戒標識の撤去	3箇所
デザインの異なるシェブロンマーカの交換	15箇所
景観面を配慮した看板(蛍光黄色)の交換	8箇所

- 「秀逸な道」の本格導入前に、道路附属物についての景観改善は概ね完了
- 「ルート景観づくりマスタープラン」の「景観課題箇所(附属物以外の課題)」についても同様な方法によって持続的な改善を開始(平成30年度に現地視察会を開催)



▲改善前

▲改善後

活動名称

「きた北海道エコ・モビリティ」の推進 R3モニターツアーの実施

エントリー部門 魅力ある観光空間づくり

ルート名称

天塩川シーニックバイウエイ × 宗谷シーニックバイウエイ

①活動概要（目的・目標、具体的な取り組み等）

●目的・目標／体験型観光と個人旅行のニーズを含め、一次交通の衰退や二次交通の脆弱さを逆手に、地域にとってプラスに、地域資源に触れ・遊び・移動そのものが観光となる新しい旅のスタイル『きた北海道エコ・モビリティ』を広域で連携・推進 ⇒スロウな旅が地域への滞在時間の長期化・経済効果・周遊性向上に繋がる。

●活動内容／R3モニターツアーの実施+CI (TEPPEN-RIDEとバスツアー)

道 (Road=自転車・歩く) と川 (River=カヌー) と鉄道 (Rail=JR宗谷本線に乗車、駅弁) が並行する地域性を活かして3つのRを繋ぎ、美しい景観を見て&自然に触れて遊び&美味しいものを味わいながら日本のてっぺんを目指す旅を提供。過年度より実施している自転車だけで日本のてっぺんを目指すサイクリングイベントTEPPEN-RIDEとは違う楽しみ方で、地域をより深く知ってもらう。

＜過年度までの参加者・その他意見より＞

- ★TEPPEN-RIDEをいつかは走りたい。けれど、全工程を走り切る自信がない。けれど、てっぺんを目指したい。
- ★自分はTEPPENに参加したいが、家族で旅をしたいため、自転車だけでないものがあるといい。
- ★地域資源に触れて遊びながら、地域の人と触れ合う時間がほしい。
- ★色んなアクティビティを楽しみ、ゆっくり巡りたい。
- ★TEPPENライダーたちを応援したい。

⇒当エリアへ興味・関心があり、ツアーのニーズもあることを確認できた。

こちらの目的（目標）とニーズに合わせて
3種類のツアーを同時開催！

- ①自転車のみ = TEPPEN-RIDE
- ②様々なアクティビティ+JR = R3モニターツアー
- ③バスのみ = TEPPEN応援バスツアー

◎同じ出発地・到着地×3日間！
 ◎3種3様の異なる移動手段で同じゴールを目指す！
 ◎毎日どこかのタイミングで合流！

●活動期間／2018年7月～2019年9月 <2017年度から「きた北海道エコ・モビリティ」の取組みを継続実施＞
 ●活動範囲／きた北海道エリア（天塩川シーニックバイウエイ、宗谷シーニックバイウエイ、その他関係する近隣市町村）

②活動の体制

実施主体 **きた北海道エコ・モビリティ**
天塩川シーニックバイウエイ【事務局】
宗谷シーニックバイウエイ
 シーニックバイウエイ支援センター

＜協力・連携＞ 常に密に情報共有
 北海道エコ・モビリティ研究会／北海道のサイクルツーリズム推進に向けた検討委員会／旭川開発建設部/稚内開発建設部/JR北海道旭川支社/その他（団体/自治体/企業等）

③PRポイント

【総意工夫した点や苦労した点】

- ・JRとの協議を重ね、スムーズな移動手段を検討（既存列車の有効活用等）
- ・R3とバスツアーの立ち寄り箇所・体験メニューを毎日変え、各ツアーの参加がお互いに体験したことを共有しあい、当エリアの様々な魅力を別の角度から知れるような仕組みとした
- ・将来の自走を見据え、取り組みへの協賛を募り、広報媒体等でPRした
- ・道路(自転車/バス)と川からのアプローチ(カヌー):絶妙な場所の設定と時間調整
- ・3つのツアーが同時に進行のため、スタッフ間での情報共有を徹底

【活動による効果】

- ・JR（旭川支社）との連絡体制が確立／取り組みへの理解が増した
- ・旅行会社で別途、TEPPEN-RIDE応援ツアーの企画・販売された
- ・協力企業（仲間）が増え、運営資金の確保に繋がった



▲JR宗谷本線に自転車積込：輸行

▲天塩川のカヌー体験(左)、宗谷丘陵の白い道を電動アシスト自転車で(右)

▲TEPPEN-RIDE参加者とバスツアー参加者と宗谷岬でGOOL！